

新島の火山活動解説資料（令和4年1月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図1、図5、図6）

式根監視カメラ（丹後山の西南西約4km）による観測では、噴気は認められません。

13日から14日にかけて実施した現地調査では、噴気及び地熱域は確認されず火山活動による異常は認められませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図2-①②、図3）

新島の山体及びその周辺の地震活動は低調に経過し、火山性微動は観測されていません。

・ 地殻変動の状況（図2-③④、図4、図7）

GNSS 連続観測及び傾斜計による観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。



図1 新島 丹後山周辺の状況
（1月16日、式根監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和4年2月分）は令和4年3月8日に発表する予定です。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、東京都及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』『電子地形図（タイル）』を使用しています。

【計数基準の変遷】	
A型地震	2010年10月1日（観測開始）～ 瀬戸山南から半径8km、深さ20km以内
B型地震	2010年8月2日～2013年9月30日 瀬戸山南上下動振幅0.8 μ m/s以上
変更	2013年10月1日～ 瀬戸山南上下動振幅4.0 μ m/s以上

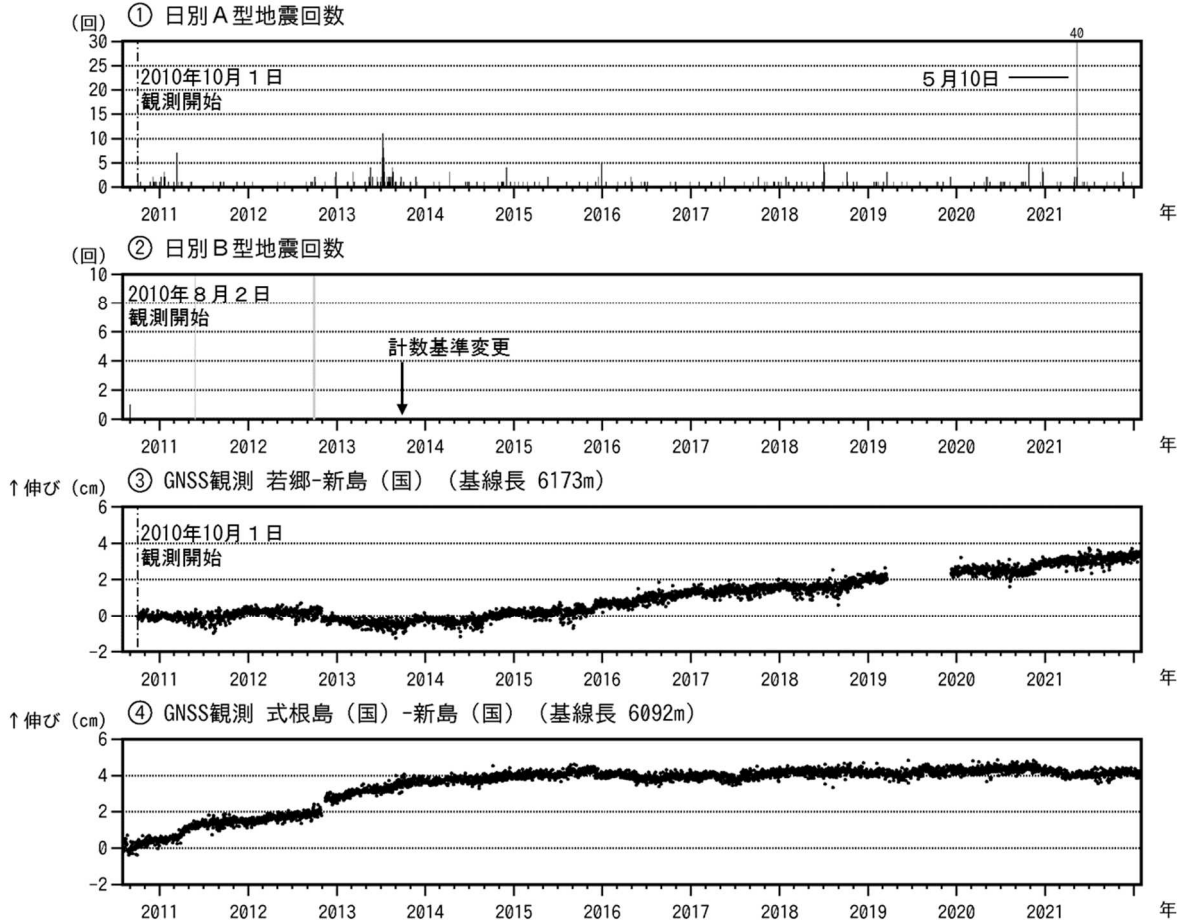


図2 新島 火山活動経過図(2010年8月2日～2022年1月31日)

①2022年2月8日現在、次の期間の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。

(1)2020年9月1日から10月23日まで、(2)2021年1月9日から3月7日まで、(3)2021年4月19日から12月5日まで

②のグラフの灰色部分は機器障害のため欠測を示しています。

③、④のグラフは図5のGNSS基線③、④に対応しています。また、グラフの空白部分は欠測を示しています。

- ・今期間、火山性地震は少ない状態で経過しました。
- ・GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

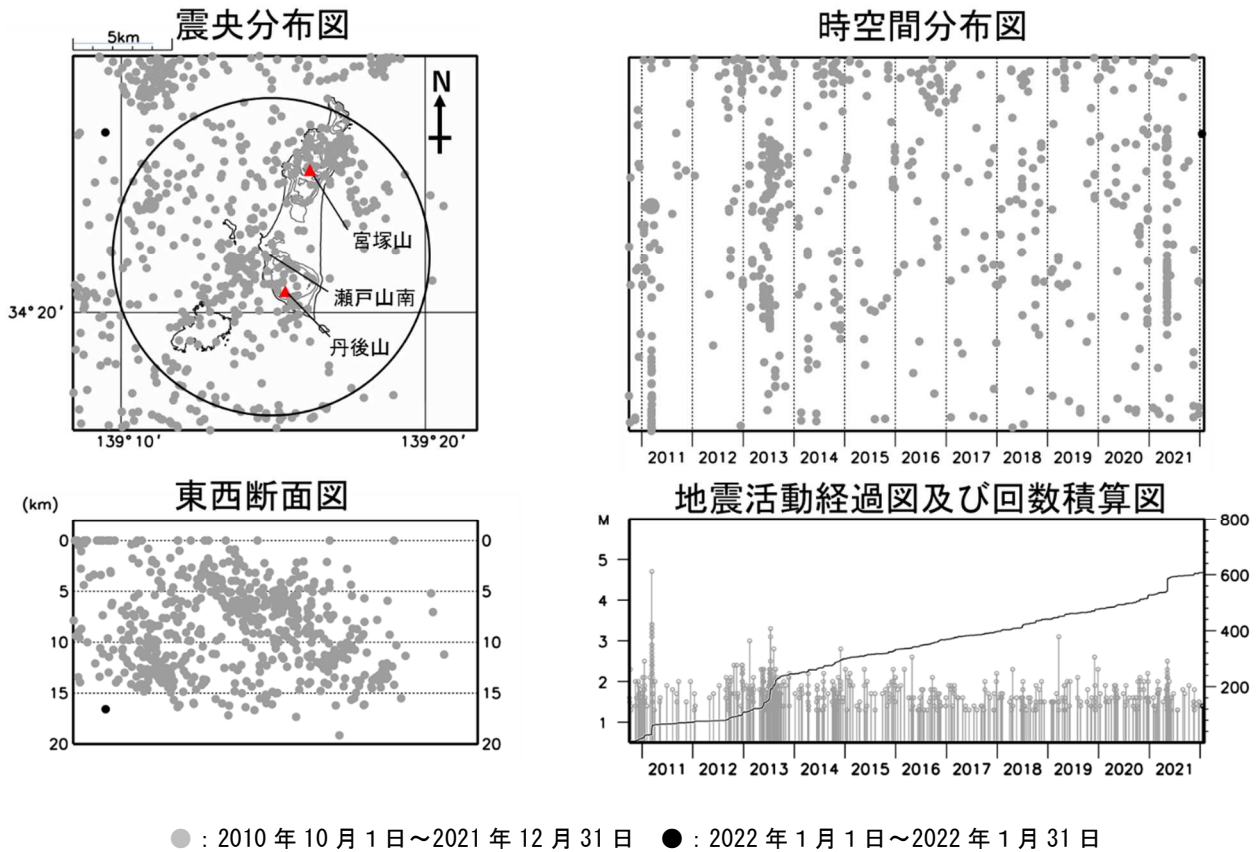


図3 新島 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2010年10月1日～2022年1月31日）
 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
 M（マグニチュード）は地震の規模を表し、M1.3以上の地震を示しています。
 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。
 計数対象（瀬戸山南から半径約8km、深さ約20km以内）以外の地震が含まれるため、図2-①の日別A型地震回数とは異なります。
 震央分布図中の円は火山性地震の回数の計数対象（瀬戸山南から半径8km、深さ20km以内）の範囲を示しています。
 この図では、関係機関の地震波形を一元的に処理し、地震観測点の標高を考慮する等した新手法で得られた震源を用いています（ただし、2020年8月以前の地震については火山活動評価のための参考震源です）。
 2022年2月8日現在、次の期間の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。
 (1)2020年9月1日から10月23日まで、(2)2021年1月9日から3月7日まで、(3)2021年4月19日から12月5日まで

・今期間、山体及びその周辺の地震は少ない状態で経過しました。

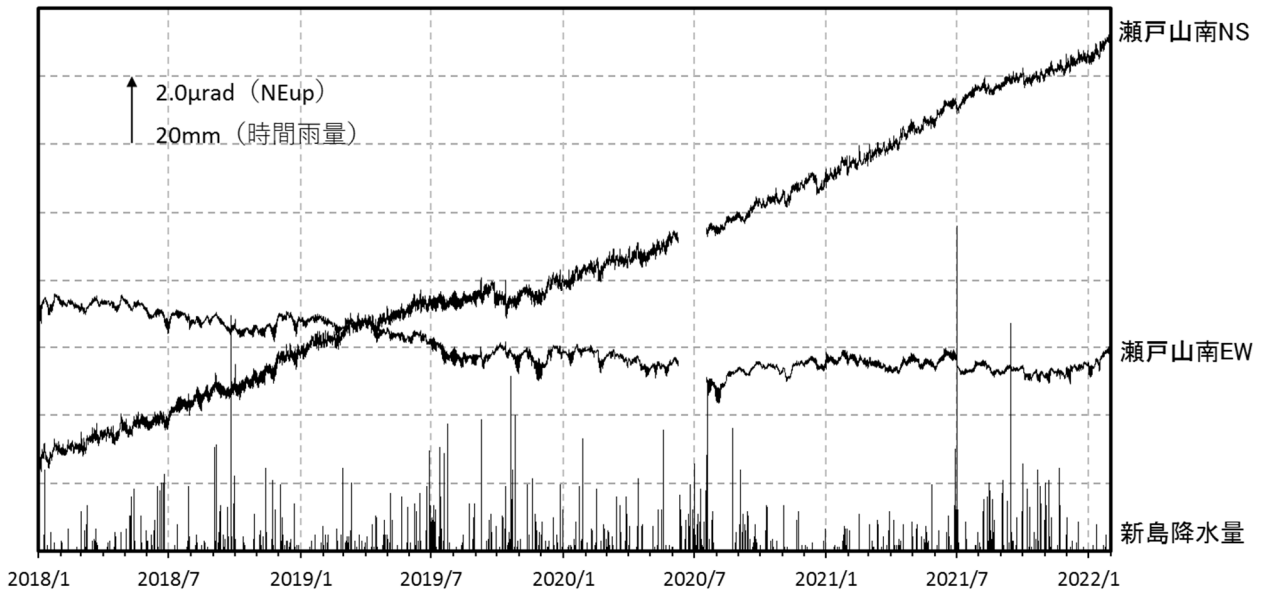


図4 新島 瀬戸山南観測点の傾斜変動（2018年1月1日～2022年1月31日）

図中の空白部分は欠測を示します。

- ・火山活動によるとみられる変動は認められません。



図5 新島 撮影位置



図6-1 新島 南東部の沿岸の状況



図6-2 新島 丹後山周辺の状況



図6-3 新島 羽伏浦海岸周辺の状況

・13日から14日にかけて実施した現地調査では、噴気及び地熱域は確認されず火山活動による異常は認められませんでした。

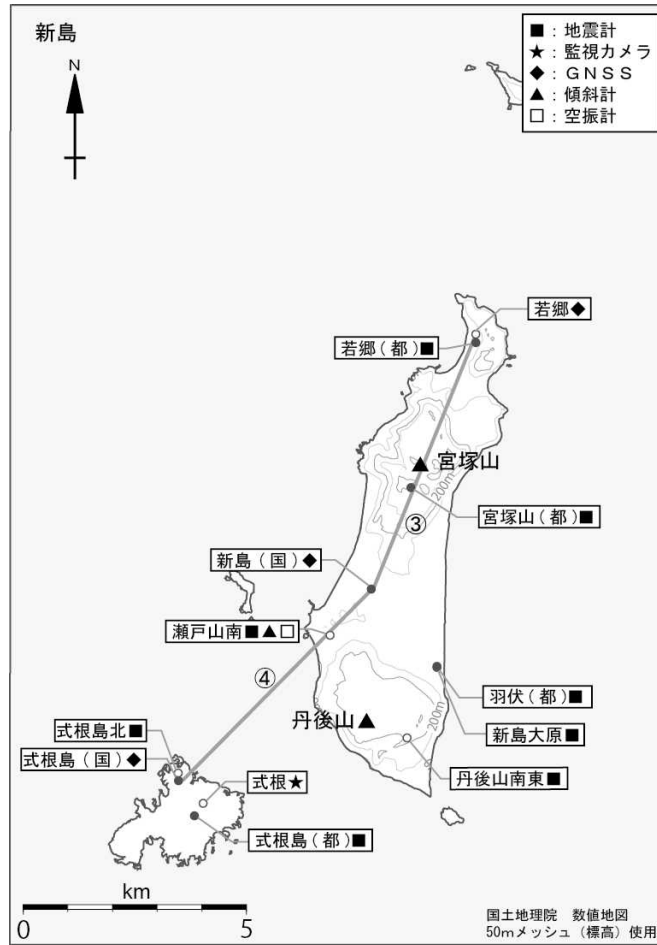


図7 新島 観測点配置図

GNSS 基線③、④は図2の③、④に対応しています。

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （都）：東京都